ONKYO®

インテグレーテッドアンプ

A-977

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切に保管してください。

主な特長

■ パルス性ノイズが混入しても正確なA/D変換を可能にするオンキヨー独自のA/D変換回路〈VLデジタル〉搭載

■ 電源電圧の変動を抑え、安定して電力を供給するために、大型電源トランスを2個搭載

■ 通常試聴音量下でS/Nを約15dB改善するオプティマム・ゲイン・ボリュームを採用

■ グランドラインと出力段ースピーカー端子間の超低インピーダンス化を図る銅バスプレートを採用

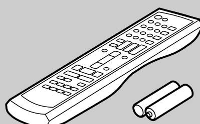
■ 音質を重視したディスクリートPHONO(フォノ)イコライザー回路

■ インレット方式ACケーブル採用

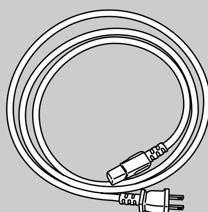
付属品

ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。
（ ）内の数字は数量を表しています。

●リモコン(RC-636S) .... (1)
●乾電池(単三形、R6) ..... (2)



●電源コード(2m) ..... (1)

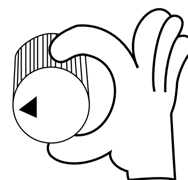


●取扱説明書 .... （本書1）
●保証書 .... （1）
●オンキヨーご相談窓口
・修理窓口のご案内 .... （1）

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後にあるアルファベットは、製品の色を表す記号です。
色は異なっても操作方法は同じです。

音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。



目次

はじめに

接続をする

音楽を鑑賞する

その他

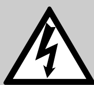
オーディオ機器の正しい使いかた

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

絵表示について
この「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意(警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。



⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。





●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な指示内容(左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください)が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない





電源プラグをコンセントから抜いてください

●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない



分解禁止

●本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
●本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない



●本機を使用できるのは日本国内のみです。
●表示された電源電圧(交流100ボルト)以外の電圧や船舶などの直流(DC)電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない



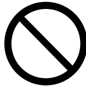
●本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次の点に気をつけてご使用ください。
• 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
• 本機を、専用ラック以外の押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
• テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、ふとんの上に置いて使用しないでください。
• 本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から20cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。

⚠警告

■ 水のかかるところに置かない

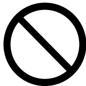

水場での使用禁止

●風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。


水ぬれ禁止

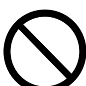
●本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

■ 水の入った容器を置かない



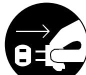
●本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■ 中に物を入れない



●本機の通風孔などから金属類や燃えやすいものを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら



電源プラグをコンセントから抜いてください

●万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない

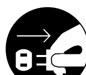


●電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがありますのでご注意ください。
●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

■ 落としたり、破損した状態で使用しない



電源プラグをコンセントから抜いてください

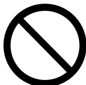
●万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

■ 雷が鳴りだしたら機器に触れない


接触禁止

●雷が鳴りだしたら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

■ 乾電池を充電しない

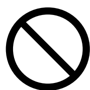


●乾電池は充電しないでください。電池の破裂や液もれにより、火災、けがの原因となります。

オーディオ機器の正しい使いかた

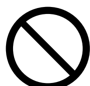
⚠注意

■ 設置上の注意



●強度の足りない台やぐらついたり、傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
●本機の上に他のオーディオ機器を乗せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。
●本機の上に10kg以上の重い物や外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

■ 次のような場所に置かない



●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について



●本機を他のオーディオ機器やテレビなどの機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■ 使用上の注意

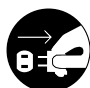


●電源を入れる前に音量（ボリューム）に注意してください。過大入力でスピーカーを破損したり、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
●長時間音が歪んだ状態で使わないでください。アンプ、スピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。
●ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
●本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意



●電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
●ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
●電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。


電源プラグをコンセントから抜いてください

●旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
●移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

■ 電池について



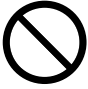
●電池をリモコンに挿入する場合、極性表示（プラス＋とマイナス－の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



●指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより火災、けがや周囲の汚損の原因となることがあります。
●電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

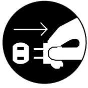
⚠注意

■ スピーカーコードについて



●スピーカーコードを傷つけたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 点検・工事について



電源プラグをコンセントから抜いてください

●お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。



●使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。
本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店にご相談ください。

●電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。



●シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

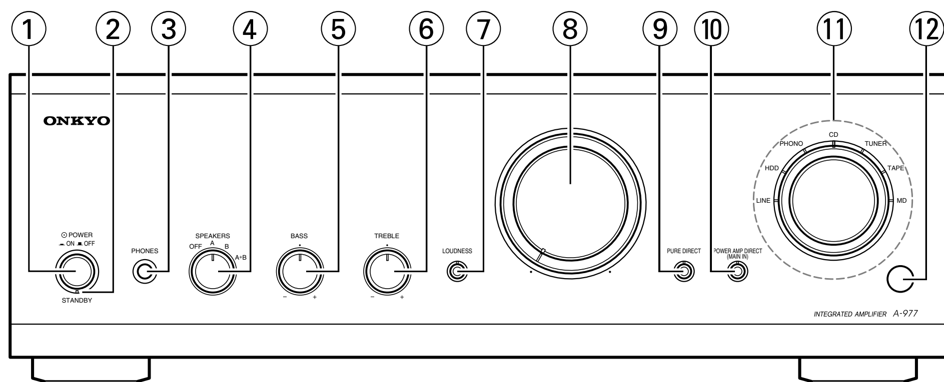


●表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。
化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

本体、リモコンボタンの名前と働き

前面パネル

〔　　〕内のページに主な説明があります。



① **POWERスイッチ〔18〕**
本機の主電源を入（▬ON）/切（█OFF）します。
█OFFにすると電源は完全に切れます。

② **STANDBYインジケーター〔18〕**
本機がスタンバイ状態のときに点灯します。
スタンバイ状態にするには、リモコンで操作します。

③ **PHONES端子〔19〕**
標準プラグのステレオヘッドホンを接続する端子です。

④ **SPEAKERSつまみ〔18〕**
音を出すスピーカーを選びます。
A、B、A＋B、OFFから選びます。

⑤ **BASSつまみ〔20〕**
低音の音量を調節します。

⑥ **TREBLEつまみ〔20〕**
高音の音量を調節します。

⑦ **LOUDNESSボタンとインジケーター〔20〕**
ボタンを「オン」にすると、音量が小さなとき高音と低音が少し強調され、聞きやすくなります。「オン」のときはインジケーターが点灯します。

⑧ **VOLUMEつまみとインジケーター〔19〕**
音量を調整します。
ミューティングが働いているときは、インジケーターが点滅します。また、スピーカーが正しく接続されていないときは、インジケーターが高速で点滅します。

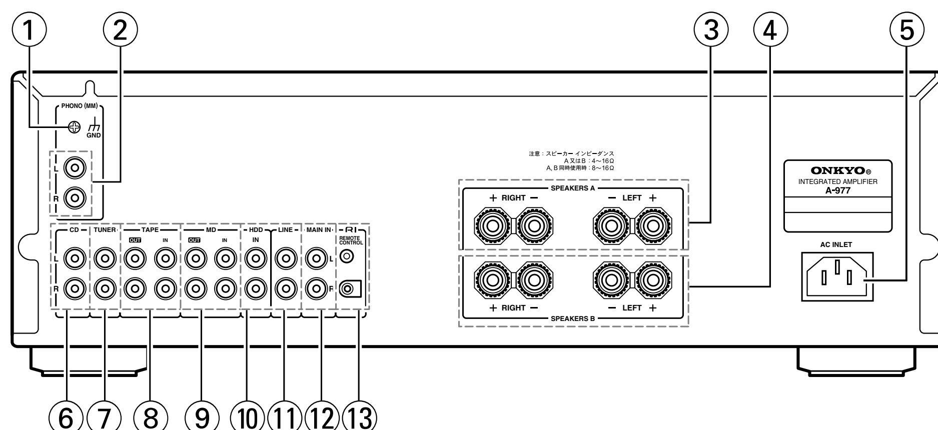
⑨ **PURE DIRECTボタンとインジケーター〔20〕**
PURE DIRECT機能のオン/オフを切り換えます。
オンのときは、インジケーターが点灯します。

⑩ **POWER AMP DIRECT(MAIN IN)ボタンとインジケーター〔21〕**
プリアンプを接続し、本機をパワーアンプとして使用するときに使います。3秒以上押してインジケーターが点灯すると、MAIN IN機能が働きます。

⑪ **INPUTつまみとインジケーター〔19〕**
再生する機器を選びます。選ばれている機器のインジケーターが点灯します。

⑫ **リモコン受光部〔12〕**
リモコンからの信号を受信します。

後面パネル



① GND端子
レコードプレーヤーのアース線を接続します。

② PHONO（MM）端子
MMカートリッジタイプのレコードプレーヤーを接続します。

③ SPEAKERS A端子
スピーカーAを接続する端子です。

④ SPEAKERS B端子
スピーカーBを接続する端子です。

⑤ AC INLET
付属の電源コードを接続します。

⑥ CD端子
オーディオ用ピンコードを使って、CDプレーヤーの音声出力端子と接続します。

⑦ TUNER端子
オーディオ用ピンコードを使って、チューナーを接続します。

⑧ TAPE端子
オーディオ用ピンコードを使って、テープデッキなど録音機器の音声入出力端子と接続します。

⑨ MD端子
オーディオ用ピンコードを使って、MDレコーダーなど録音機器の音声入出力端子と接続します。

⑩ HDD端子
オーディオ用ピンコードを使って、オンキヨー製RIインタラクティブドックなどのHDD機器を接続します。

⑪ LINE端子
オーディオ用ピンコードを使って、再生機器の音声出力端子と接続します。

⑫ MAIN IN端子
本機をパワーアンプとして使用する場合、この端子にプリアンプを接続します。

ご注意

音量調節機能のないCDプレーヤーなどは接続しないでください。最大音量で動作し、本機やスピーカーが故障する可能性があります。

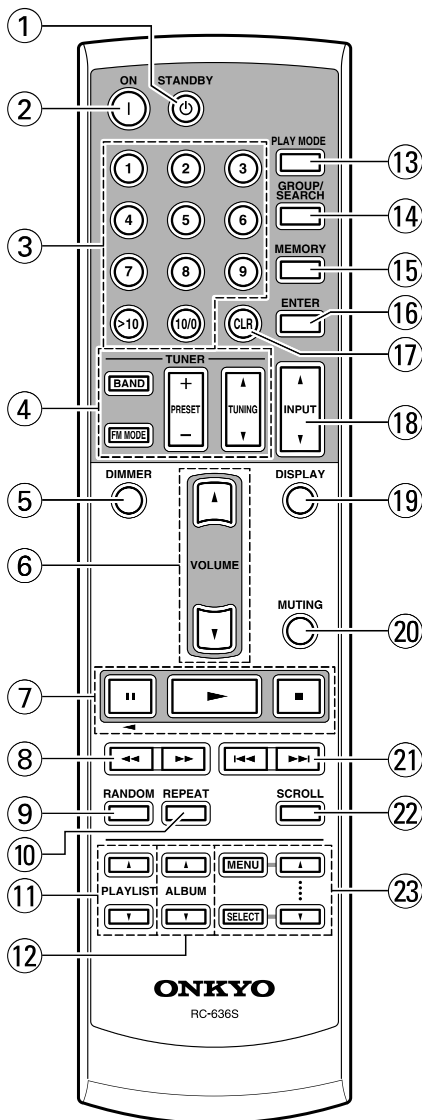
⑬ RI端子
RI端子付きオンキヨー製品と接続し、連動させる端子です。RIケーブルの接続だけでは連動しません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

接続ついては、13～17ページをご覧ください。

本体、リモコンボタンの名前と働き

リモコン（RC-636S）

〔　〕内に数字が記載されているボタンは、本機を操作することができます。
その他のボタンは、RI接続したオンキヨー機器を操作することができます。



※接続する機器によっては、対応していない場合があります。

① **STANDBYボタン〔18〕**
本機をスタンバイ状態にします。

② **ONボタン〔18〕**
本機の電源を入れます。

③ **数字ボタン**
オンキヨー製CDやMDの選曲をします。
10/0ボタン：10または0を選びます。
＞10ボタン：2桁以上の曲を選びます。
詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。

④ **TUNER操作ボタン**
BANDボタン：押すたびにFMとAMが切り換わります。
FM MODEボタン：FM放送を「モノ」または「ステレオ」に切り換えます。
PRESET＋/－ボタン：登録した放送局を選びます。
TUNING▲/▼ボタン：放送局の周波数を合わせます。

⑤ **DIMMERボタン**
オンキヨー製CDの表示部の明るさを切り換えます。

⑥ **VOLUME▲/▼ボタン〔19〕**
音量を調節します。

⑦ **オンキヨー機器操作ボタン**
ダブルカセットデッキの場合は、デッキBのみ操作することができます。
❚❚ボタン：再生を一時停止します。
カセットデッキの場合は、リバース再生をします。
■ボタン：再生を停止します。
▶ボタン：再生を始めます。

⑧ **◀◀/▶▶ボタン**
オンキヨー製CDやMD、HDD機器の早戻し、早送りをします。

⑨ **RANDOMボタン**
オンキヨー製CDやMD、HDDを順不同に再生します。
オンキヨー製カセットデッキを再生する場合は、ドルビーNRボタンとして働きます。

⑩ **REPEATボタン**
オンキヨー製CDやMD、HDDをくり返し再生します。
オンキヨー製カセットデッキを再生する場合は、リピートモードを切り換えるボタンとして働きます。

⑪ PLAYLIST(プレイリスト)▲/▼ボタン
オンキヨー製HDD機器のプレイリストを選びます。

⑫ ALBUM(アルバム)▲/▼ボタン
オンキヨー製HDD機器のアルバムリストを選びます。

⑬ PLAY(プレイ) MODE(モード)ボタン
オンキヨー製MDまたはCDの再生モードを選びます。

⑭ GROUP(グループ)/SEARCH(サーチ)ボタン
オンキヨー製MDのグループを選択するときに使用します。CDでは曲番を選択するときに使用します。

⑮ MEMORY(メモリー)ボタン
オンキヨー製CDやMDの再生する曲順を記憶させます。

⑯ ENTER(エンター)ボタン
オンキヨー製CDやMDを接続している場合に、設定した内容を決定するときに押します。

⑰ CLR(クリア)ボタン
オンキヨー製CDやMDで記憶した曲を取り消します。

⑱ INPUT(インプット)▲/▼ボタン
本機で聞くソースを選びます。

⑲ DISPLAY(ディスプレイ)ボタン
オンキヨー製CDやMDの表示部の内容を切り換えます。
オンキヨー製HDD機器の場合は、バックライトを点灯させます。

⑳ MUTING(ミューティング)ボタン〔19〕
音量を一時的に小さくします。

㉑ ⏮/⏭ボタン
オンキヨー製CDやMD、HDD、CDRの前後の曲を選べます。押すたびに前または後に曲番がスキップします。

㉒ SCROLL(スクロール)ボタン
オンキヨー製MDの文字を移動表示します。
オンキヨー製HDD機器の場合は、バックライトを点灯させます。

㉓ MENU(メニュー)、SELECT(セレクト)▲/▼ボタン

MENU(メニュー)ボタン：HDD機器のメニューを表示します。

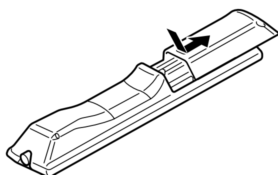
SELECT(セレクト)ボタン：HDD機器のメニューの内容を決定します。

▲/▼ボタン：HDD機器のメニュー内容を選択します。

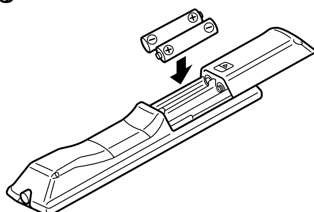
リモコンを準備する

乾電池を入れる

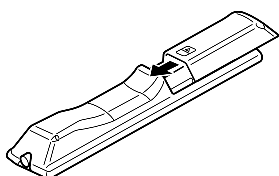
1. カバーを矢印の方向にずらして開ける



2. 中の極性表示にしたがって、付属の乾電池2個を＋（プラス）と－（マイナス）を間違えないように入れる



3. カバーを戻す

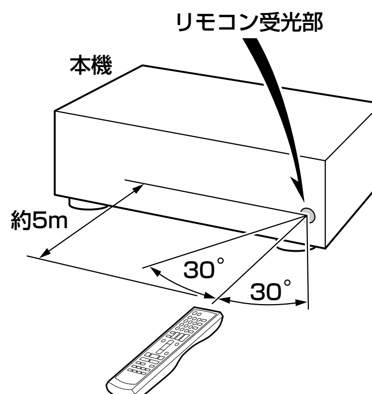


ご注意

- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出しておいてください。
- 消耗した電池を入れたままにしておきますと腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、古い電池を取り出して2本とも新しい電池と交換してください。
- 電池の交換時には、単3形をご使用ください。

リモコンの使いかた

リモコンは本体のリモコン受光部に向けて操作してください。



ご注意

- リモコン受光部に日光やインバーター蛍光灯などの強い光を直接当てると正しく動作しないことがあります。
- 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンの上に本など、ものを置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていたり、装飾フィルムを貼っていると、リモコンが正常に機能しないことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると操作できません。

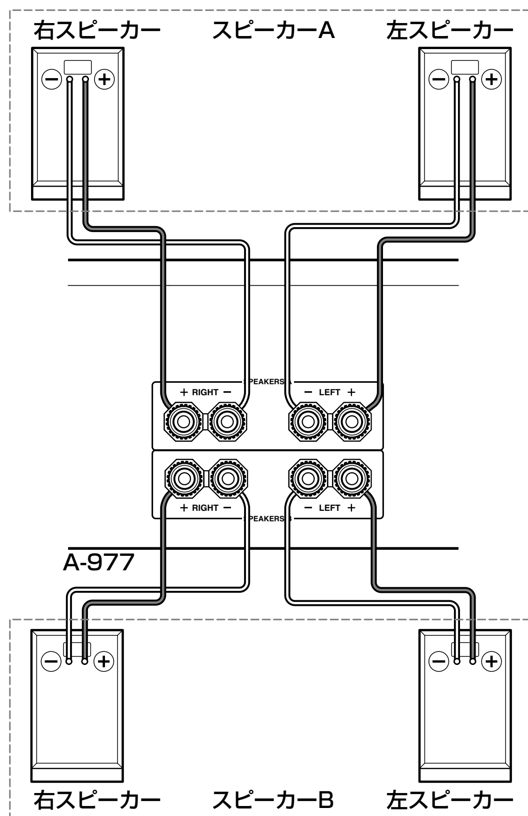
接続をする

スピーカーを接続する

電源コードは全ての接続が終わるまでつながないでください。また、スピーカーに付属の取扱説明書もお読みください。

本機には2セットのスピーカーを接続することができます。音楽を鑑賞するときに、どちらのスピーカーから音を出すか選択できます。また、両方のスピーカーから音を出すこともできます。

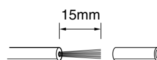
- スピーカーA、スピーカーBともに必ずL/Rセットで接続してください。Lチャンネルのみ、Rチャンネルのみの接続では音が出ません。
  接続が不完全ですと、電源を入れたときにVOLUME(ボリューム)インジケーターが点滅します。
- スピーカーAまたはB端子のいずれかにのみ接続する場合は、インピーダンスが4〜16Ω(オーム)のスピーカーをご使用ください。
- スピーカーAとB端子の両方に接続する場合は、インピーダンスが8〜16Ωのスピーカーをご使用ください。8Ω未満のスピーカーを接続すると、保護回路が働く場合があります。



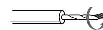
スピーカーコードの接続

本機のスピーカー端子のプラス⊕とスピーカーのプラス⊕端子、本機のスピーカー端子のマイナス⊖とスピーカーのマイナス⊖端子を接続します。

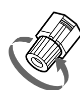
① スピーカーコードの被覆を15mmカットする



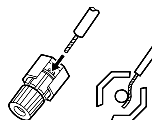
② しん線の先端をしっかりとよじる



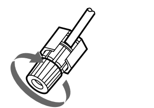
③ ねじをゆるめる



④ しん線を差し込む

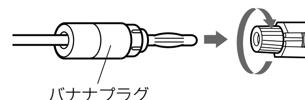


⑤ ねじを締め付ける



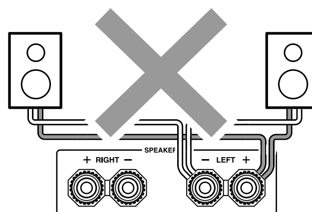
バナナプラグの場合

バナナプラグタイプのスピーカーコードを接続することもできます。その場合は、スピーカー端子のねじを締めてからプラグを差し込んでください。

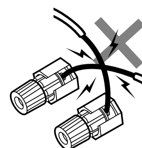


ご注意

- プラス⊕とマイナス⊖を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続すると音声が不自然になりますのでご注意ください。
- スピーカー端子に複数のスピーカーコードは接続しないでください。故障の原因になります。
- 1台のスピーカーだけを使用する場合やモノラル音声を再生する場合、1台のスピーカーを左右スピーカー端子に並列接続しないでください。



危険
回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線のプラスとマイナスを絶対に接触させないでください。
また、リアパネルにも触れないように、ご注意ください。



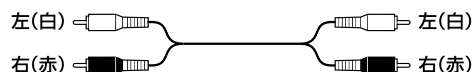
接続をする

機器を接続する前に

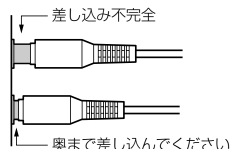
- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 電源コードは全ての接続が終わるまでつながないでください。

オーディオ用ピンコードは以下のように接続してください。

- 入力端子は赤いコネクターを右チャンネル（Rの表示）、白いコネクターを左チャンネル（Lの表示）に接続してください。



- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。
- オーディオ用ピンコードは電源コードやスピーカーコードと束ねないでください。音質が悪くなることがあります。



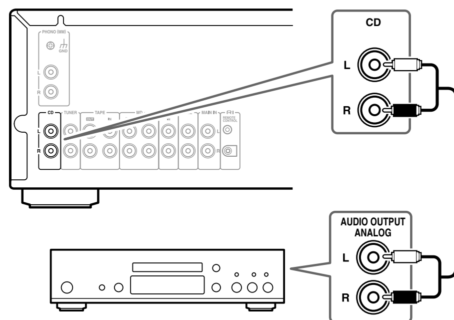
- スピーカーコードや電源コードをチューナーのアンテナに近づけると、影響を与える場合がありますので、できるだけ離してください。

オーディオ機器を接続する

CDプレーヤーを接続する

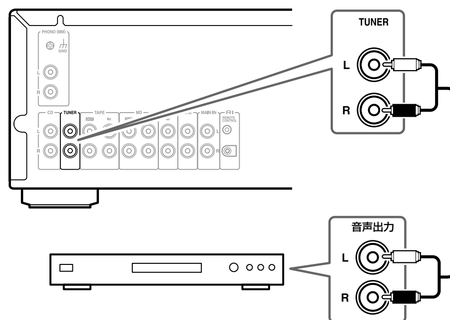
本機のCD端子とCDプレーヤーのアナログ音声出力端子を接続します。

例：オンキヨー製CDプレーヤー（C-777）との接続



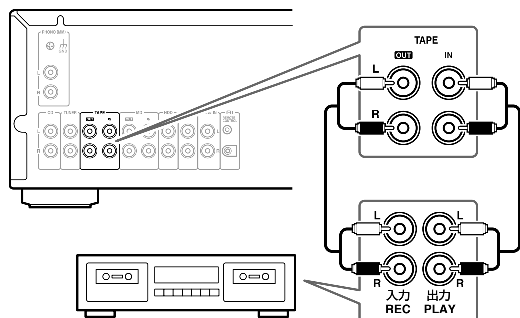
チューナーを接続する

本機のTUNER（チューナー）端子とチューナーのアナログ音声出力端子を接続します。



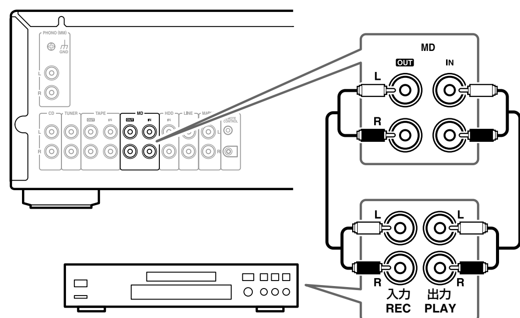
テープデッキを接続する

本機のTAPE OUT端子とテープデッキのアナログ音声入力端子を接続します。
本機のTAPE IN端子とテープデッキのアナログ音声出力端子を接続します。



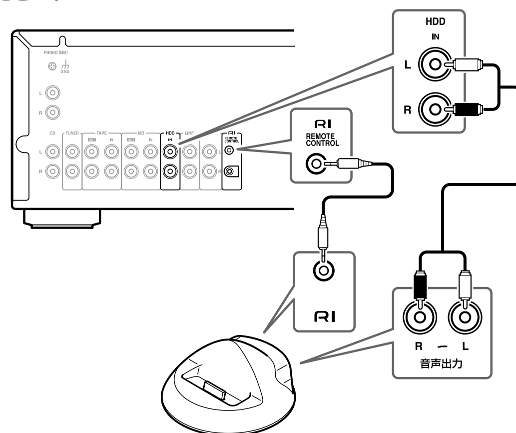
MDレコーダーを接続する

本機のMD OUT端子とMDレコーダーのアナログ音声入力端子を接続します。
本機のMD IN端子とMDレコーダーのアナログ音声出力端子を接続します。



リモートインタラクティブドック（RIドック）を接続する

オンキヨー製DS-A1などのRIドックを本機と接続します。
本機のHDD IN端子とRIドックの音声出力端子を接続してください。



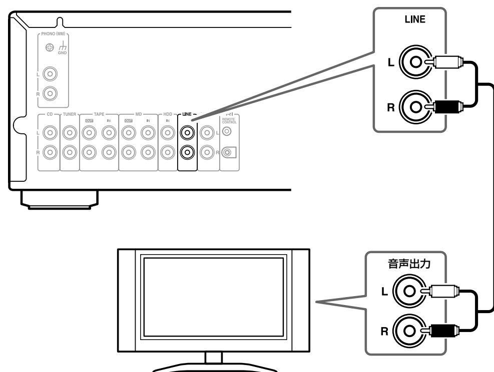
オンキヨー製RIドックとRI端子接続をすると、以下の機能が使えます。

- 本機に付属のリモコンでRIドックを操作できます。（オーディオ用ピンコードも接続してください。）
  RIドックのMODEスイッチは、「HDD」にしてください。
- オンキヨー製RIドックの再生をすると、本機の入力が自動的に「HDD」に切り換わります。

接続をする

テレビなどの再生機器を接続する

本機のLINE端子と接続する機器のアナログ音声出力端子を接続します。

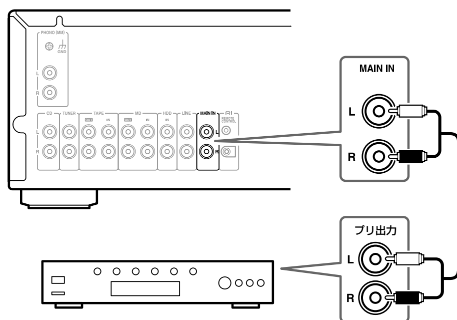


！ヒント

テレビに音声出力端子がない場合は、ビデオデッキの音声出力端子を本機と接続すると、ビデオデッキに内蔵されたテレビチューナーでテレビの音をお楽しみいただけます。

プリアンプを接続する

プリアンプと接続すると本機をパワーアンプとして使用することができます。本機のMAIN IN端子とプリアンプのプリ出力端子を接続します。スピーカーは本機に、再生機器はプリアンプに接続します。

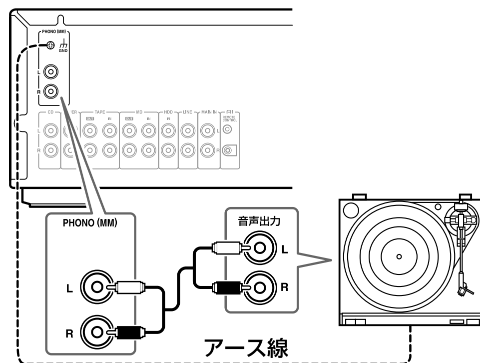


ご注意

- 音量調節機能のない機器は接続しないでください。最大音量で動作し、本機やスピーカーが故障する可能性があります。
- 本機をパワーアンプとして使用する場合は、前面パネルのPOWER AMP DIRECT（MAIN IN）ボタンを3秒以上押して、インジケーターを点灯させる必要があります。（☞21ページ）

レコードプレーヤーを接続する

本機はムービングマグネット（MM）カートリッジを使用するレコードプレーヤー用に設計されています。
レコードプレーヤーの接続コードを本機のPHONO L/R端子に接続します。PHONO端子にはショートピンが差し込んであります。ショートピンをはずしてから接続してください。



ご注意

アース（接地）線のあるレコードプレーヤーは、アース線を本機のGND端子に接続してください。ただし、レコードプレーヤーによっては、アース線を接続すると逆にノイズが大きくなることがあります。その場合は、アース線を接続する必要はありません。

！ヒント

MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーをご使用になる場合は、レコードプレーヤーに昇圧トランスまたはヘッドアンプを接続します。
次に、昇圧トランスやヘッドアンプの音声出力端子と本機のPHONO L/R端子を接続します。

RI ケーブルを接続する

RI端子付オンキヨー製品と組み合わせた場合、システム機能を使うことができます。（本機にRIケーブルは付属していません。各機器に付属しているRIケーブルをご使用ください。）

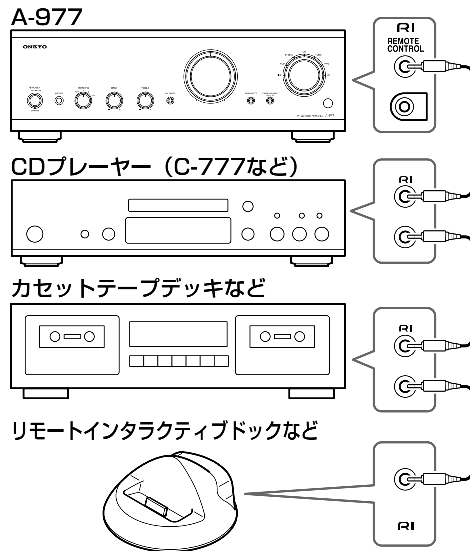
オートパワーオン
本機に接続されている機器の電源を入れたり、再生を始めると、本機の電源が自動的に入ります。また、本機の電源を入、切すると接続されている機器全体の電源が入ったり、切れたりします。

ダイレクトチェンジ
本機に接続されている機器を再生すると、本機の入力が自動的に切り換わります。

リモコン操作
本機に付属のリモコンで各機器を操作することができます。

- 使用できるシステム機能については、各機器の取扱説明書をご覧ください。

（例）



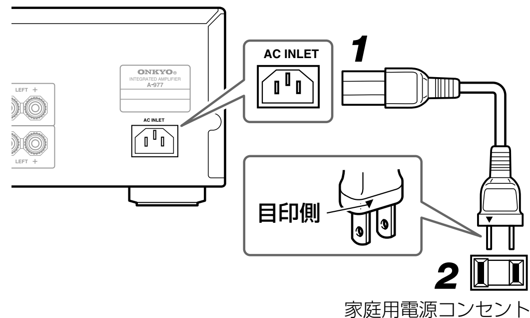
- RI端子はRI端子付きオンキヨー製品と組み合わせてご使用ください。
- RI端子が2つ以上ある場合、それぞれの端子の働きは同じです。いずれにでもつなげます。
- RI 端子の接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。
- MDレコーダーを2台など、同じカテゴリーのオンキヨー製品を複数接続する場合、システム機能が働くのは1台だけです。1台だけRIケーブルを接続し、それ以外はRIケーブルを接続しないでください。
- 本機はアンプ製品ですので、他のアンプのRI端子と接続しても連動しません。
- 本機をパワーアンプとしてご使用の場合（MAIN IN（メイン イン）機能使用中）は、RI機能はご使用になれません。

電源コードを接続する

電源プラグを接続する前に
すべての接続が完了していることを確認してください。
本機の電源を入れると，瞬間的に大きな電流が流れてコンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめします。

1 **はじめに、本機のAC INLET（インレット）に本機に付属の電源コードを接続します。**

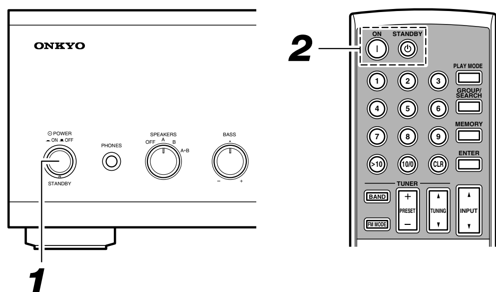
2 **電源コードのプラグをコンセントに差し込みます。**



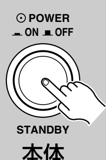
よりよい音で聞いていただくために
本機の電源コンセントは極性の管理がされています。電源プラグの目印側を家庭用電源コンセントの溝の長い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の長さが同じ場合はどちらを接続してもかまいません。

音楽を鑑賞する

電源を入れる



1



本体

本体のPOWERスイッチを押す

主電源が入り、リモコンでオン/スタンバイができるようになります。初めてPOWERスイッチを押したときは、「オン」になります。次回からは、前回スイッチを切ったときの状態（オン/スタンバイ）になります。

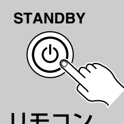
2

リモコンでオンまたはスタンバイにする



リモコン

オンにするには、リモコンのONボタンを押す
STANDBYインジケーターが消灯します。



リモコン

スタンバイにするには、リモコンのSTANDBYボタンを押す
STANDBYインジケーターが点灯します。

システム全体の電源を入れるには

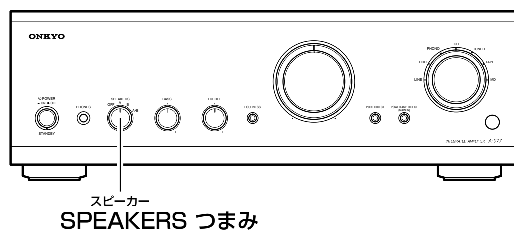
本機がオンのときに、リモコンのONボタンをもう一度押します。RI接続したすべてのオンキヨー機器も電源が入ります。

一度にシステム全体の電源が入るようにするには

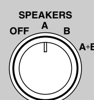
電源が入った状態でリモコンのONボタンを16秒以上押し続けます。
スタンバイ状態になり、次からはリモコンのONボタンを一度押すと、システム全体の電源が入ります。

- 元に戻すには、リセットをします。（☞23ページ）

音を出すスピーカーを選ぶ



スピーカー
SPEAKERS つまみ



スピーカーAもしくはスピーカーBのどちらかだけ音を出したり、スピーカーA、Bの両方から音を出したりできます。
A、B、A+B、OFFの4つのポジションから選択することができます。

- A：SPEAKERS A端子に接続したスピーカーから音が出力されます。
- B：SPEAKERS B端子に接続したスピーカーから音が出力されます。
- A+B：SPEAKERS A、SPEAKERS B端子に接続した両方のスピーカーから音が出力されます。
- OFF：どのスピーカーからも音は出力されません。また、スピーカーを接続していないときは、「OFF」にしてください。

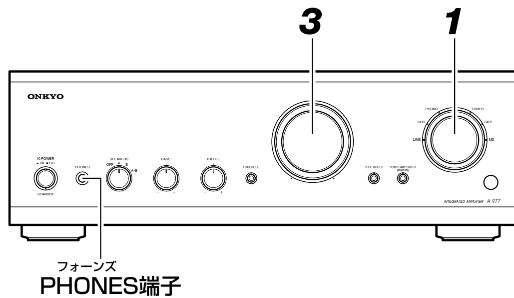


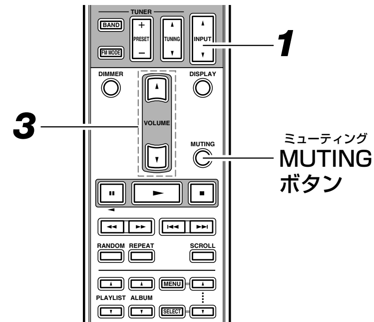
VOLUMEインジケーターが高速に点滅している場合は、スピーカーが正しく接続されているか確認してください。

！ヒント

スピーカーA、Bを別々の場所に設置して「A+B」を選ぶと、同じソースを各々の場所で聞くことができます。

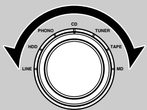
接続した機器を再生する





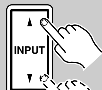
1

INPUTつまみを回して、再生する機器を選ぶ



本体

または



リモコン

LINE	：	LINE端子に接続した機器
HDD	：	HDD端子に接続した機器
PHONO	：	PHONO端子に接続した機器
CD	：	CD端子に接続した機器
TUNER	：	TUNER端子に接続した機器
TAPE	：	TAPE端子に接続した機器
MD	：	MD端子に接続した機器

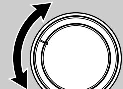
リモコンでは、INPUT▲/▼ボタンで選べます。

2

選んだ機器の再生を始める

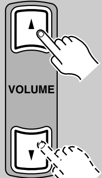
3

音量を調節する



本体

または



リモコン

本体のVOLUMEつまみ、またはリモコンのVOLUME▲/▼ボタンで音量を調節します。

- つまみは右に回すと音が大きくなり、左に回すと小さくなります。

ご注意

MAIN IN機能を使って本機をパワーアンプとして使用しているときは、音量調整機能は働きません。

一時的に音量を小さくする

MUTING



リモコンのMUTINGボタンを押す

VOLUMEインジケーターが点滅します。

解除するには

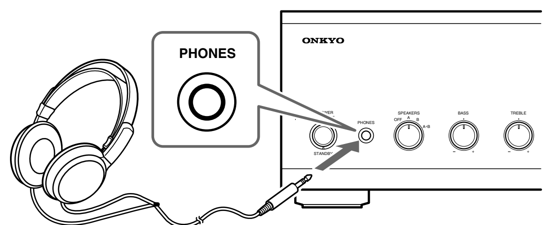
もう一度MUTINGボタンを押します。

- リモコンで音量を変えたり、本体のSTANDBYボタンを押した場合にも解除されます。

ご注意

MAIN IN機能を使って、本機をパワーアンプとして使用しているときは、ミューティング機能は働きません。

ヘッドホンで聞く



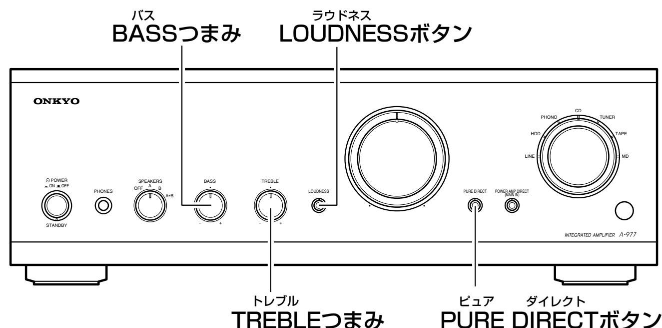
PHONES端子にヘッドホンのステレオ標準プラグを接続する

- 接続する時は音量を下げてください。
- スピーカーからの音が消えます。
- MAIN IN機能を使用しているときは、ヘッドホンで聞くことはできません。

音楽を鑑賞する

音質を調整する

MAIN IN機能を使っているときは、音質調整の効果はありません。



PURE DIRECT機能を使う



PURE DIRECTボタンを押す

押すたびにピュアダイレクト機能をオン/オフします。

オン：BASS、TREBLE、LOUDNESSなどの音質調整回路を通らないダイレクトな音で聞くことができます。
インジケーターが点灯します。

オフ：音質調整の効果が働きます。
インジケーターが消灯します。

LOUDNESS機能を使う



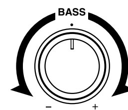
LOUDNESSボタンを押す

LOUDNESSボタンを押すとインジケーターが点灯し、ラウドネス機能が働きます。
音量を小さくしたときラウドネスを「オン」にすると強制的に高音と低音を強調し、聞きとりやすくなります。

ご注意

- PURE DIRECT機能を「オン」にしているときは、ご使用になれません。
- MAIN IN機能を使って本機をパワーアンプとして使用しているときは、ラウドネス機能は働きません。

低音を調整する



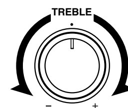
BASSつまみを回す

BASSつまみを回して調整します。
右に回すと低音が強調されます。通常は中央の位置に合わせておきます。

ご注意

- PURE DIRECT機能を「オン」にしているときは、ご使用になれません。
- MAIN IN機能を使って本機をパワーアンプとして使用しているときは、バス機能は働きません。

高音を調整する



TREBLEつまみを回す

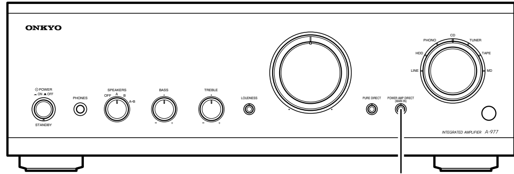
TREBLEつまみを回して調整します。
右に回すと高音が強調されます。通常は中央の位置に合わせておきます。

ご注意

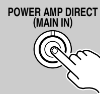
- PURE DIRECT機能を「オン」にしているときは、ご使用になれません。
- MAIN IN機能を使って本機をパワーアンプとして使用しているときは、トレブル機能は働きません。

MAIN IN機能を使う（本機をパワーアンプとして使う）

プリアンプを接続し、本機をパワーアンプとして使用することができます。



POWER AMP DIRECT (MAIN IN)ボタン



POWER AMP DIRECT（MAIN IN）ボタンを3秒以上押し続けて、インジケーターを点灯させる

プリアンプを接続した場合、本機をパワーアンプとして使用することができます。
プリアンプの入力端子に接続した機器の音声をスピーカー端子へ出力します。

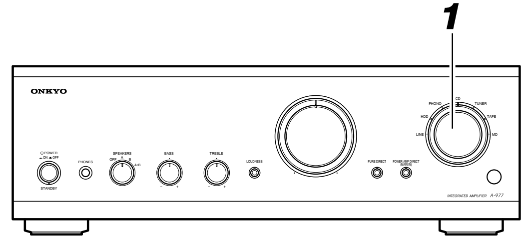
元に戻すには
同様にPOWER AMP DIRECT（MAIN IN）ボタンを押し続けて、インジケーターを消灯させてください。

ご注意

- MAIN IN機能を使用しているとき、本機はパワーアンプとして働きます。本機のVOLUMEつまみやINPUTつまみを回しても効果はありません。MAIN IN機能を解除したとき、INPUTつまみで選んだ機器の音が出ますので、特にVOLUMEつまみの位置にご注意ください。
- MAIN IN機能を使用しているとき、本機はパワーアンプとして働きますので、以下の操作や機能は働きません。
「音量調整」、「入力切り換え」、「ミューティング機能」、「ON、STANDBYボタン以外のリモコン操作」、「RI連動動作」、「PURE DIRECT機能」、「録音」
音量調整、入力切り換え、ミューティングなどは接続したプリアンプ側で操作してください。
- MAIN IN端子に音量調節機能のない、CDプレーヤーなどを接続して、MAIN IN機能を使わないでください。最大音量で動作し、本機やスピーカーが故障する可能性があります。
- ミューティング中やRI機器の録音中は、MAIN IN機能が働きません。

録音する

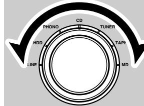
あなたが録音したものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。



ご注意

- TAPE OUT端子やMD OUT端子に接続した録音機器に録音することができます。
- 音質調整効果は録音されません。
- MAIN IN機能を使用しているときは、録音できません。

1



録音する機器（再生側）を選ぶ

INPUTつまみを回して、録音する機器（再生側）を選びます。

2

録音する機器（録音側）の準備をする

録音する機器を録音待機状態にします。
- 録音レベルの調整は、録音機器で行ってください。
- 録音のしかたについては、録音機器の取扱説明書をご覧ください。

3

録音を始める

手順**1** で選んだ再生機器を再生します。

ご注意

録音中に入力を切り換えないでください。
切り換えた入力の音が録音されます。

困ったときは

まず下記の内容を確認してみてください。接続した他機に原因がある場合もありますので、他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。

電　源

電源が入らない

- 電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。〔17ページ〕
- 一度電源プラグをコンセントから抜き、10秒以上待ってから再度コンセントに差し込んでください。

電源が切れ、STANDBYインジケーターが点滅している

- 保護回路が働いている可能性があります。電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店またはオンキヨー修理窓口にご連絡ください。

音　声

音声が出力されない/小さな音しか聞こえない

- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。〔14ページ〕
- 接続した機器の入力端子/出力端子に間違いがないか確認してください。
- スピーカーコードの＋/－は正しく接続されているか、スピーカーコードのしん線部が本機のスピーカー端子の金属部に確実に固定されているか確認してください。〔13ページ〕
- 入力が正しく選択されているか確認してください。〔19ページ〕
- VOLUMEインジケーターがゆっくり点滅している場合は、リモコンのMUTING（ミューティング）ボタンを押して解除してください。〔19ページ〕
- VOLUMEインジケーターがはやく点滅しているときは、スピーカーが正しく接続されていない可能性があります。接続を確認したのち、再度電源スイッチを入れ直してください。
- MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーをお使いの場合、昇圧トランスまたはヘッドアンプが必要です。〔16ページ〕
- ケーブルが折れ曲がったり、損傷していないか確認してください。
- 本機をパワーアンプとして使用しているとき（MAIN INインジケーターが点灯しているとき）は、プリアンプに接続した機器の音声が出力されます。本機に接続した機器の音声を出力するには、MAIN IN機能をOFFにしてください。〔21ページ〕
- SPEAKERSつまみが正しく設定されているか確認してください。「OFF」の場合は、どちらのスピーカーからも音が出ません。〔18ページ〕

ノイズが出る

- オーディオ用ピンコードと電源コードなどを束ねると音質が劣化しますので避けてください。
- 接続コードが他の機器の影響を受けている可能性があります。接続コードの位置を変えてみてください。

音質調整の効果がない

- PURE DIRECTインジケーターが点灯しているときはピュアダイレクト機能が働いているため、音質調整の効果は出ません。もう一度ボタンを押してインジケーターを消してください。〔20ページ〕

リモコン

リモコン操作ができない

- 乾電池を2本とも新しいものと交換してみてください。〔12ページ〕
- 電池の極性（＋/－）が正しく入っているか確認してください。〔12ページ〕
- リモコンと本体の間が離れすぎていないか、リモコンと本体のリモコン受光部の間に障害物がないかを確認してください。〔12ページ〕
- 本体のリモコン受光部に強い光(インバーター蛍光灯や直射日光)が当たっていると、リモコン操作ができない場合があります。〔12ページ〕
- オーディオラックのドアに色付きガラスが使用されていると、正常に機能しない場合があります。〔12ページ〕
- MAIN IN機能が働いているときは、リモコン操作はできません。〔21ページ〕

録　音

録音ができない

- MAIN IN端子に接続した機器は録音できません。
- MAIN IN機能が働いているときは録音できません。

その他

他機の操作ができない

- オンキヨー製品とRIケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- RIケーブルを接続している場合、オーディオ用ピンコードも接続してください。（RIケーブルの接続だけでは連動しません。）

VOLUMEつまみを回しても音量が変わらない

- MAIN IN機能が働いているときは音量調整はできません。接続したプリアンプ側で操作してください。

ミューティング機能が働かない

- MAIN IN機能が働いているときはミューティング機能は働きません。接続したプリアンプ側で操作してください。

主な仕様

電源・電圧	AC100V、50/60Hz
消費電力	260W
待機時電力	0.1W
最大外形寸法	435(幅)×144(高さ)×431(奥行)mm
質量	17.6kg
定格出力	100W+100W (8Ω 1kHz、全高調波歪率0.5%以下、2ch駆動)
実用最大出力	300W+300W(4Ω JEITA)
全高調波歪率	0.08%(1kHz、1W出力時)
ダンピングファクター	25(8Ω)
入力感度/インピーダンス	200mV/50kΩ(LINE) 2.5mV/50kΩ(PHONO MM)
出力電圧/インピーダンス	200mV/2.2kΩ(REC OUT)
PHONO最大許容入力	70mV(MM 1kHz 0.5%)
周波数特性	10Hz〜60kHz/+1dB −3dB(CD)
トーンコントロール最大変化量	+10dB、−10dB、100Hz(BASS) +10dB、−10dB、20kHz(TREBLE) +10dB、50Hz(LOUDNESS) +2dB、10kHz(LOUDNESS)
SN比	100dB(CD、IHF-A) 70dB(PHONO、IHF-A)
スピーカー適応インピーダンス	4Ω〜16Ω
音声入力(アナログ)	PHONO/CD/TUNER/TAPE/MD/HDD/LINE/MAIN IN
音声出力(アナログ)	TAPE/MD
スピーカー	2(A、B)
ヘッドホン	1

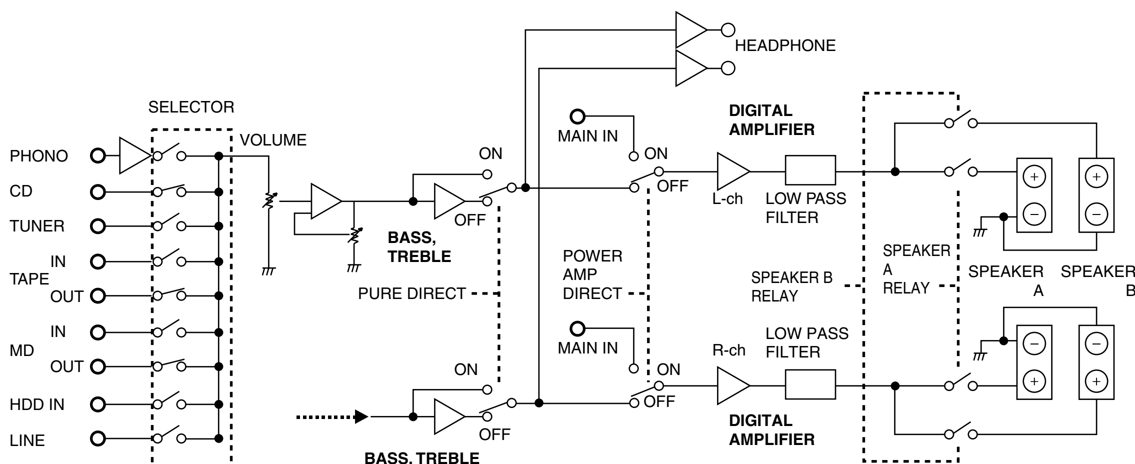
仕様および外観は、性能向上のため予告なく変更することがあります。

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、少なくとも10秒以上放置してから電源プラグを差し込んでください。

製品の故障により正常に録音できなかったことによって生じた損害(CDレンタル料等)については保証対象になりません。大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音できることを確認の上、録音を行ってください。

リセットするには
電源を入れた状態でPURE DIRECTボタンを押しながらLOUDNESSボタンを押して、しばらくしてから両方のボタンを離してください。
INPUTインジケーターが1秒間点灯してから、オン状態になります。

ブロック図



修理について

■保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

▶ お名前
▶ お電話番号
▶ ご住所
▶ 製品名　A-977
▶ できるだけ詳しい故障状況

■オンキヨー修理窓口について

詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　年　月　日
ご購入店名：
Tel.　(　)
メモ：

ONKYO®
オンキヨー株式会社
本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

ONKYO HOMEPAGE
http://www.jp.onkyo.com/

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：カスタマーセンター
ナビダイヤル ☎ 0570(01)8111（全国どこからでも市内通話料金で通話いただけます）
または ☎ 072(831)8111（携帯電話、PHSから）

Printed in Japan
G0510-1

SN 29344107

